

↑ 目次 <単元の振り返り> ▶ 単元の振り返りシート

◆ 小説 1

単元の振り返りシート

_____年 _____組 名前 _____

学習目標

- * 作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を適切に読み取る
- * 語りの仕組みを理解し、視点を変えて物語を書き換える

①学習した教材

②学習目標をふまえて、単元での学習を通してわかったこと、できるようになったことを書き出そう。

③単元で学習したこと、これからどのような場で生かせるか考え、自分の言葉でまとめよう。

↑ 目次 <小諸なる古城のほとり (島崎藤村)> ▶ 椰子の実 (島崎藤村)

椰子の実

島崎
藤村

①

名も知らぬ遠き島より
流れ寄る椰子の実一つ
故郷の岸を離れて
汝はそもそも波に幾月

旧の樹は生ひや茂れる
枝はなほ影をやなせる
われもまた泊を枕

孤身の浮寝の旅ぞ

実をとりて胸にあつれば
新なり流離の妻

海の日の沈むを見れば
落り落つ異郷の涙

思ひやる八重の湖
いづれの日にか國に帰らん

（出典）『日本の詩歌』（島崎藤村）（中央公論社）
一九七四年版

（著者）島崎 藤村（しまざき とうそん）
（生年）一八七二（明治五）年一月四日（西暦一八七一年）
（没年）一九四三（昭和十八）年九月廿六日
（墓所）「若葉園」（福岡市東区）

↑ 目次 <時計 (萩原朔太郎) > ▶ 旅上 (萩原朔太郎)

旅上

萩原朔太郎

ふらんすへ行きたしと思へども
ふらんすはあまりに遠し
せめては新しき背広をきて
きままなる旅にいでみん。
汽車が山道をゆくとき
みづいろの窓によりかかりて

われひとりうれしきことをおもはむ
五月の朝のしのめ
うら若草のもえいづる心まかせに。

5

(出典 「萩原朔太郎全集 第二巻」)

1 いでみん う。 2 おもはむ 3 しのめ 4 思い描こう。 5 明け方。

↑ 目次 <日本語の表記法 (水村美苗) > ▶ 旅上 (萩原朔太郎)

(上記と同じ「旅上」を入れる)

↑ 目次 <時計 (萩原朔太郎) > ▶ 死なない蛸 (萩原朔太郎)

死なない蛸

萩原朔太郎

或る水族館の水槽で、ひさしい間、帆ゑの蛸が倒はれてゐた。地下の薄暗い岩の影で、青ざめた玻璃天井の光線が、いつも想しげに漂つてゐた。

だれも人は、その薄暗い水槽を忘れてゐた。もう久しい以前に、蛸は死んだと思はれてゐた。そして腐った海水だけが、埃っぽい日ざしの中で、いつも硝子窓の槽にたまつてゐた。

けれども動物は死ななかつた。蛸は岩影にかくれて居たのだ。そして彼が目を覚した瞬間、不幸な、忘れられた槽の中で、幾日も幾日も、おぞろしい飢餓を忍ばねばならなかつた。

かつた。どこにも御食がない、食物が全く尽きてしまつた時、彼は自分の足をもいで食つた。まつその一本を。それから次の一本を。それから、最後に、それがすつかりおしまひになつた時、度胸を真がへして、内臓の一部を食ひはじめた。少しづつ他の一部から一部へと、順々に。

かくして蛸は、彼の身体全体を食ひつくしてしまつた。外皮から、眼瞼から、胃袋から。どうもかしいも、すべて残る限なく。完全!』

或る朝、ふと番人がそこに来た時、水槽の中は空っぽになつてゐた。暑つた埃っぽい硝子の中で、藍色の透き通つた潮水と、なよなよした海草とが動いてゐた。そしてどこかの岩の隅隅にも、もはや生物の姿は見えなかつた。蛸は実際に、すつかり消滅してしまつたのである。

けれども蛸は死ななかつた。彼が消えてしまった後ですらも、尚ほ且つ永遠にそこには生きてゐた。古抜けた、空っぽの、忘れられた水族館の槽の中で、永遠に——おそらくは幾世紀の間を過じて——或る物すごい欠乏と不満をもつた、人の目に見えない動物が生きて居た。

——『宿命』

①玻璃
ガラス

↑ 目次 <サーカス (中原中也) > ▶ 汚れつちまつた悲しみに…… (中原中也)

汚れつちまつた悲しみに……

中原
中也

汚れつちまつた悲しみに
今日も小雪の降りかかる
汚れつちまつた悲しみに
今日も風さへ吹きすぎる

汚れつちまつた悲しみは
たとへば狐の革袋
汚れつちまつた悲しみは
小雪のかかつてぢぢこまる

汚れつちまつた悲しみは
なのにぞむなくねがふなく
汚れつちまつた悲しみは
倦怠のうちに死を夢む
汚れつちまつた悲しみに
いたいたしくも怖氣づき
汚れつちまつた悲しみに
なすどころもなく日は暮れる……

(出典)『中原中也全集』(角川書店
一九六七年)

〔著者〕中原中也 (なかはら ちゅうや)
一九〇七(明治四十一年)一月二十七日
詩人、山口県の生まれ。
「山羊の歌」「春の歌」など

↑ 目次 <サーカス (中原中也) > ▶ 月夜の浜辺 (中原中也)

月夜の浜辺

中原
中也

①

月夜の晩に、ボタンが一つ
波打際^{なみうき}に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと
僕は思つたわけでもないが
なぜだかそれを捨てるに忍びず
僕はそれを袂^{えり}に入れた。

月夜の晩に、ボタンが一つ
波打際^{なみうき}に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと
僕は思つたわけでもないが
月に向つてそれは抛^{なげ}れず
浪に向つてそれは抛^{なげ}れず
僕はそれを袂^{えり}に入れた。

月夜の晩に、拾つたボタンは
最先に沁^{しみ}み、心に沁^{しみ}みた。
どうしてそれが、捨てられようか?

(出典「日本の詩歌23 中原中也」(川東静雄・八木重吉著) 中央公論社、一九七四年)

【参考】中原中也(なかはら ちゅうじやく) 一九〇七(明治四十)年一月二十七日生(昭和一〇)年三月二十九日死。『月夜の浜辺』は、日本詩歌コンクールで大賞を受賞した詩である。

↑ 目次 <文学を読むために ②比喩・反復> ▶ 樹下の二人 (高村光太郎)

樹下の二人

高村
光太郎

みちのくの安達が原の一本松の根かたに人立てる見ゆ

あれが阿多多羅山
あの光るのが阿武隈川。

かうやつて言葉すくなに坐つてみると、
うつとりねむるやうな頭の中に、

ただ遠い世の松風ばかりが薄みどりに吹き渡ります。

この大きな冬のはじめの野山の中に、
あなたと二人静かに燃えて手を組んでゐるよろこびを、

みちのく 現在の青森、岩手、宮城、福島各県にまたがる地域。
1 安達が原 福島県安達郡の安達が原以東に山東麓に広がる原野。
2 阿多多羅山 安達太良山のこと。福島県北部にある火山。標高約1700メートル。
3 阿武隈川 福島県中央部を流れ、宮城県に入り、太平洋に注ぐ川。

下を見てゐるあの白い雲にかくすのは止しませう。

あなたは不思議な仙丹を魂の盛にくゆらせて、
ああ、何といふ幽妙な愛の海ぞこに人を誘ふとか、

ふたり一緒に歩いた十年の季節の展望は、
ただあなたの中に女人の無限を見せるばかり。
無限の境に燃るものこそ、
こんなにも情意に悩む私を清めてくれ、
こんなにも苦渋を身に負ふ私に美かな若さの景を注いでくれる、
むしろ魔ものやうに捉へがたい
妙に変幻するのですね。

あれが阿多多羅山、
あの光るのが阿武隈川。

ここはあなたの生れたふるさと、

仙丹 服用すると不死
不死となり、仙人になるという意味。

↑ 目次 <単元の振り返り> ▶ 単元の振り返りシート



◆ 詩

単元の振り返りシート

_____年_____組 名前_____

学習目標

- ★ 詩の特徴的な表現の技法とその効果について理解する
- ★ さまざまな詩の形式にふれ、描かれた情景や心情を理解する

①学習した教材

②学習目標をふまえて、単元での学習を通してわかったこと、できるようになったことを書き出そう。

③単元で学習したこと、これからどのようない場で生かせるか考え、自分の言葉でまとめよう。

↑ 目次 <夢十夜（夏目漱石）> ▶ 吾輩は猫である（夏目漱石）

吾輩は猫である

夏目
漱石

吾輩は猫である。名前はまだない。

どう生まれたかどんと見がつかぬ。なんでも薄暗いじめじめした所でニャーニャー鳴いていた。こだはるは人間中でいちばん躊躇な種族であったそうだ。この書生はどうのほどきどきそれを捕まえて煮て食うというのである。しかしも当時はなんという考え方もなかったから別段恐ろしいとも思わなかつた。ただ彼のてのひらにのせられてスーと持ち上げられたときなんだかフワフワした感じがあつぱりである。このひらのそよそよ落ち着いて書生の顔を見たのがいわゆる第一回といふもの見始めてゐる。このとき妙なものだと思ったらしが今でも残つている。だいいち毛をもつて裝飾されべきはずの顔がつるつるしてまるでやかんだ。その後筋にもだいぶ会つたがこんな顔には一度もくわしたことがない。のみならず顔の毛の中が余りに突つしている。そうしてその穴の中からそよそよふぶうと煙を吹く。どうもせせぼくて実に弱つた。これが人間のむだばことうものであることはちやくの頃知つた。

この書生のてのひらの内へはしばらくはよいじ持ちに座つておつたが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのかわからぬがむやみに口が回る。胸が悲

くなる。どういひ助からないと思つてゐると、どうりと音がして口から火が出た。それまでは記憶しているあとはなんのことやらいくら考へ出そうともわからぬ。ふと気がついてみると書生はない。たくさんおつた兄弟が一匹も見えぬ。肝心の母親さえ姿を隠してしまつた。そのうえ今までの所とは違つてやがて明るい。日を開けていられぬくらいいだはよくなても様子がおかしく、のそのそはい出してみると非常に痛い。吾輩はわらの上からねに唇の内へ捨てられたのである。

ようやくの思いで唇原をはい出でと向うに大きな歯がある。吾輩は池の前に座つてどうしたらよからうと考へてみた。べつにこれという分別も出ない。しばらくして鳴いた書生がまた運んでくれるかと考へつた。ニャー、ニャーと試みにやつてみたが誰も来ない。そのうち池の上をさざらと風が走つて轟轟かかる。腹が非常によつてきた。鳴きたても声が出ない。しかたがない。なんでもよいから無い物のある所まで歩つて決心をしてそろそろりと池を左に回り始めた。どうも非常に苦じた。そこを我慢して理やりにはつてゆくとどうやくのことどなんどなく人間らしい所へ出た。こゝへ入つたら、どうにかななると思つて背負の折れた穴から、とある都市内へ潜り込んだ。緑は不思議なもので、もしのこの街が破れていなかつたら、吾輩はついに路傍に餓死したかもしれんのである。一樹の陰はよ夔いたものだ。この用根の穴は今日に至るまで吾輩が隣の三毛を訪問するときの通路となつてゐる。さて屋敷は呂び込んだものこれから先どうしていいかわからぬ。そのうちに暗くなる。腹はへる。寒さは寒し、雨が降つてはる。朝子ができなくなつた。しかたがないからとにかく明るくて暖かそう。一方へと歩いてゆく。今から考へるとそつきは既に家の内に入つておつたのだ。

ここで吾輩はほかの書生以外の人間を再び見るべき機会に遭遇したのである。第一次会ったのがお

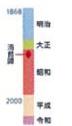
【書生】学生。また、他の文部省事務官が少しがくの間にあつてゐる意味。

【おさとん】おさとん。屋根の上に坐つて家や屋敷をする工作事をする者。

↑ 目次 <文学を読むために ③寓意> ▶ 清貧譚（太宰治）

清貧せきひん

太宰だざい
治おさむ



以下に記されたのは、かの聊齋志異の中の一編である。原文は、千八百三十四字。これを私たちの普通用いている四百字詰めの原稿用紙に書き写しても、わずかに四枚半くらいの、こく短い小片に過ぎないのであるが、読んでいるうちにさまざまな空想がわいて出て、優に三十枚前後の好短編を読みした時と同じくらいの演説感を見るのである。私は、この四枚半の小片によつて私のさまざまの空想を、そのまま書いてみたいのである。このようなしきが果たして創作の本道かどうか、それには議論もあることであろうが、聊齋志異の中の物語は、文学の古典というよりは、故土の口碑に近いものだと私は思っているので、その古物語を情文として、二十世紀の日本の作家が、不遜の空想を案配し、かねて自己の感情を託しながら創作なりと読者に勧めても、あながち深い罪にはなるまいと考えられる。私の新体制も、ロマンチズムの発掘以外にはないようだ。

昔、江戸、向島辺りに馬山才之助まさんさいのすけといふ、つまらない名前の男が住んでいた。ひどく貧乏である。三十二歳、独身である。菊の花が好きであった。佳い菊の苗が、どこかにあると聞けば、どのような無理算段をしても、必ずこれを買ひ求めた。千里をばかうす、と記されてあるから相当のものであることが分かる。初秋のころ、伊豆の沼津辺りに佳い苗があるということを聞いて、たちまち旅装を調べ、顔色を変えて発足した。⁵箱根の山を越へ、沼津に至り、四方八方搜し回り、やつと二つ、二つのみごとな苗を手に入れることができ、そいつを茎物のように大事に油紙に包んで、にやりと笑つて帰途についた。再び箱根の山を越え、小田原町が眼下に展開して来たころに、ばかりかと背後には馬蹄の音が聞こえた。継ぎ足並みで、その馬蹄の音が、いつまでも自分と同じ間隔を保つたままで、それ以上近く迫るやうなし、また遠のきもせず、変わらずばかりいて来る。才之助は、「あれども、菊の良種を得たこと、有頂天なのだから、そんな馬の足音などは気にしない。けれども、少田原を過ぎ三里行ぎ、三里ぎ、四里行つても、相変わらず同じ間隔で、ばかりかと馬蹄の音がついて来る。才之助も、初めて少し変だと気がついて、振り返つてみると、美しい少年が奇妙に瘦せた馬に乗り、自分から十間と離れていないところを歩いている。才之助の顔を見て、につと笑つたようである。知らぬふりをしているのも悪いと思つて、才之助も、ちょっと立ち止まつて笑ひ返した。少年は、近寄つて馬からり、「いいお天気ですね」と言つた。

- ①著者志異、中國、清代の筆者小説集。蒲松龄（1716-1797）の著。②藝術の感、杯いぱいと書をつぶれたような胸感。③故土の口碑をもととの伝承。
- ④新体制は一九四〇年（昭和15年）、第二次世界内閣によって設立され、大臣主義的官僚体制。ここでは私はこの社会的活動に自らの作風度を取つてゐる。感情の自由な空想を表現する文章上の傾向。
- ⑤ロマンチズム、感情の自由な空想を表現する文章上の傾向。

10 5 10

⑥向島、今の大東京墨田区向島、東京の東部を流れ墨田川と合流する河。⑦千里、一里は約1.6キロメートル。⑧伊豆、旧国名、静岡県の伊豆半島の一部。⑨箱根の山、山梨県道の難所であつた箱根峠。⑩油紙、桐油などを塗つた防水用の紙。

15

⑪十間、一間は約一八メートル。

↑ 目次 <単元の振り返り> ▶ 単元の振り返りシート

③ 小説 2									
単元の振り返りシート									
_____年 _____組 名前 _____									
学習目標									
物語と現実との関係に注目して、文章の意味を理解する 作品の世界観を支える構成や表現の特色について理解する									
①学習した教材									
②学習目標をふまえて、単元での学習を通してわかったこと、できるようになったことを書き出そう。									
③単元で学習したことを、これからどのような場で生かせるか考え、自分の言葉でまとめよう。									

短歌

いちはつの花咲きいで、我が目には今年ばかりの春行かんとす

正岡子規
伊藤左千夫

牛飼が歌よむ時に世の中の新しき歌大いに起る

佐佐木信綱

春ここに生る朝の日をうけて山河草木みな光あり

島木赤彦

みづうみの氷は解けてなほ寒し三日月の影波にうつろふ

北原白秋

青玉のしだれ花火のちりかかり消ゆる路上を君よいそがむ

清水へ祇園をよぎる桜月夜こよひ逢ふ人みなうつくしき

与謝野晶子

↑目次 <文学を読むために ④短歌・俳句の修辞> ▶俳句

俳句

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

正岡子規

春風や開志いだきて丘に立つ

高浜虚子

種田山頭火

うしろすがたのしへれてゆくか

咳をしても一人

尾崎放哉

咳をしても一人

種田山頭火

河東碧梧桐

赤い椿白い椿と落ちにけり

ゆさゆさと大枝ゆるる桜かな

村上鬼城

▶ 目次 <単元の振り返り> ▶ 単元の振り返りシート

◆ 短歌・俳句

単元の振り返りシート

_____年 _____組 名前 _____

学習目標

- 短歌・俳句の形式と表現の技法について理解する
- 作品に詠まれた情景や心情について理解する
- 自分の思いが伝わるよう表現の仕方を工夫して、短歌・俳句を作る

①学習した教材

②学習目標をふまえて、単元での学習を通してわかったこと、できるようになったことを書き出そう。

③単元で学習したことを、これからどのような場で生かせるか考え、自分の言葉でまとめよう。

目次 <文学を読むために ⑤作品の背景> ▶最後の一句（森鷗外）

最後の一句

森
鷗
外

元文三年十一月二十二日のことである。大駿で、船乗り業社屋太郎氏という者を、木津川市に書いて立てられた。市にいたるところ太郎兵衛のうわさかりてゐる中に、それ最も新しく感ぜなくてはならぬ。太郎兵衛の家族は、南祖國江崎の家で、もう二年ほど、ほんと今世間との交通を絶つて暮らしているのである。この子貢すべきことに、社屋へ知らせに来たのは、ほど遠からぬ野町に住んでいた太郎兵衛が、女房の母であつた。この日、娘の嫁のことを社屋へは、野町のおばあ様と言つてゐる。おばあ様とは、社屋にいる五人の子供がいもいものい物をお土産に持ってきてくれる祖母に名づけた名で、それを主人呼び、女房も呼ぶようになったのである。

おばあ様を慕つて、おばあ様に付え、おばあ様ねだる様が、社屋に住んでいる。その四人は、おばあ様が十七になつた娘を社屋へ嫁にゆこししてから、今年十六年めになるまでの間に生まれたのである。長女いがが十六歳、二女まつが十四歳、三女おひが十三歳である。その次に太郎兵衛の娘を嫁に出す覚悟で、野町の女房の母から、赤子のうちにもらつて受けた。長太郎といふ、歳の男がある。その次にまた生まれた太郎兵衛の娘は、とくにいって八歳になる。最後に太郎兵衛の初めてもうけた男子の初五郎がいて、これが六歳になる。

平野町の里方は、田舎なので、おばあ様のお土産はいつも孫たちに満足をさせていた。それが一昨年太郎兵衛の入院してからでは、とかく孫たちに喜びを起させれるようになつた。おばあ様が春らし向きの用に立場を上り下りするので、おもややおもずは少くなくなりてある。

しかしこれから生い立つてゆく子供の元氣は、感んなんもの、たなむはおばあ様のお土産がざくしなつたばかりでなく、おっ母様の不機嫌になつたにも、ほどなく慣れて、憎しおれた様子もなく、相変わらず小さな争闘と小さい和諧との刻々に交存するに交存するにきやかな生活を繰り返している。

そして「遠い所へ行って帰らぬ」とい聞かされた父の代わりに、このおばあ様の来るのを歓迎している。

これに反して、尼羅(にら)は、つからこのかた、いつも同じような悔恨と悲痛とほがに、何物をも受け入れることのできなくなつた太郎兵衛の女房は、手厚くみついでくれ、親切に慰め、心をこめて、おもろく感謝の意をも表すことがない。母がいつ来ても、同じような諒り言を聞かせて恥ずのいある。

尼羅に違つた初めには、女房はただ當然と目をまはつて、食事も子供のため、賛美的にお話をすると、自分はほとんど何も食わずに、しきりに喉が渇くと言つては、湯を少しつつ飲んでいた。夜は、それでぐつり寝たかと思うと、たびたび目を見ましてため息をつく。それから、最初に四歳になる時、尼羅が目を見る。そこは母の寝いのぬに気がついて、呼ばれて床に入つて、子供が安心して寝つくと、また大きく目を開いてたま見思つてゐるのであった。それから三日たつて、ようよう泊まりがけに来ている母に、尼羅は、「お母さん」を言つて泣くことができるようにになった。それから九年ほどの間、女房は器用的に立ち働いては、同じように隣

↑ 目次 <単元の振り返り> ▶ 単元の振り返りシート



◆ 小説 3

単元の振り返りシート

_____年 _____組 名前 _____

学習目標

- 作品に描かれたものの見方を捉え、人間や社会について考えを深める
- 作品の成立した背景をふまえ、内容の解釈を深める

①学習した教材

②学習目標をふまえて、単元での学習を通してわかったこと、できるようになったことを書き出そう。

③単元で学習したこと、これからどのような場で生かせるか考え、自分の言葉でまとめよう。

広がる言葉の世界
翻訳

古池や蛙^{かはづ}飛び込む水の音

——松尾芭蕉

Old pond

frogs jumped in

sound of water.

——ラフカディオ・ハーン 訳

The old mere!

A frog jumping in,

The sound of water.

——正岡子規 訳

↑ 目次 <学びを広げる 作品を読み直す> ▶ ワークシート記入例

学びを広げる 作品を読み直す

ワークシート記入例

選んだ作品	「輪仏師良秀(宇治拾遺物語)(24ページ)」
記憶している内容【や】	記憶している内容【や】
「印象」	良秀が妻や子供の命よりも絵を書くことを優先していた様子。授業でもその姿勢についてみんなと意見交換した。
再読した後の「印象の達成」	再読した後の「印象の達成」
や改めて「想づいたこと」「感じたこと」	や改めて「想づいたこと」「感じたこと」
理由の分析	理由の分析

当時、火事の様子を目にすることが多くなかつたからこそ、写実的に描かれた大炎のみでさを後の人も称赞したのもしれない。

美術の授業で、写眞の発明によって物事を單に忠実に描く技術の価値が下がり、その後ギリスムなどのさまざまな表現が現れだしたことを学んだ。テレビやインターネットで簡単に火事の様子を見られる現代と異なるか、ふと、忠実に描かれた良秀の火事の絵は高く評価されたのだと思う。

↑ 目次 <単元の振り返り> ▶ 単元の振り返りシート

6 評論・随想

単元の振り返りシート

_____年 _____組 名前 _____

学習目標

- 日本語の表記法に対する筆者の見解を理解する
- 異文化との交流を通して培われた筆者の考え方を理解する
- 文学と人間の関係を論じる筆者の意識を捉える
- 作品を読み直して気づいたことを論述し、言語文化について考えを深める

①学習した教材

②学習目標をふまえて、単元での学習を通してわかったこと、できるようになったことを書き出そう。

③単元で学習したこと、これからどのような場で生かせるか考え、自分の言葉でまとめよう。

目次 <ブックガイド> ブックガイド

ブックガイドリスト

読書記録シート

目次 <ブックガイド> ブックガイドリスト

ブックガイドリスト

ページ	教材名	書名・著者	著者性	刊行年
30	ブックガイド 古文入門	『これで古文がよくわかる』(鈴木卓)	筑摩書房(ちくま文庫)	2001
30	ブックガイド 古文入門	『中学生からの日本語の歴史』(吉野勝哉)	筑摩書房(ちくまプリマーブックス)	2019
30	ブックガイド 古文入門	『学年始読本』(伊藤正義 編)	KADOKAWA(角川ソフィア文庫/ビギナーズ・クラシックス 日本の古文)	2017
30	ブックガイド 古文入門	『今古物語』(奥川豊之輔)	KADOKAWA(角川ソフィア文庫/ビギナーズ・クラシックス 日本の古文)	2002
30	ブックガイド 古文入門	『古今物語』(竹村一郎 編)	筑摩社(筑摩学年少少年古文叢書)	2010
30	ブックガイド 古文入門	『古今物語』(竹村一郎 編)	柳原知恵(柳原知恵・少年少女古文叢書)	1999
30	ブックガイド 古文入門	『物語文庫』(赤川能之介)	筑摩書房(少年少女古文叢書)	2013
30	ブックガイド 古文入門	『紅茶子ノ内文記』(坂井良子)・(坂井良子、高橋一郎、内山裕)	筑摩書房(少年少女古文叢書)	2016
30	ブックガイド 古文入門	『物語文庫』(枕草子) (季庭香子)	筑摩書房(季庭香子)	2023
30	ブックガイド 古文入門	『すうすうせめらむ枕草子』(山口伸美 編)	筑摩書房(すうすうせめらむ枕草子)	2010
30	ブックガイド 古文入門	『漢文草』(高内裕子 編)	筑摩書房(ちくま学芸文庫)	2010
30	ブックガイド 関東	『漢文草』(小川明生)	筑摩書房(ちくま学芸文庫)	2000
30	ブックガイド 関東	『マンガでわかる源氏物語』(高木尚子)	山田書店	2023
30	ブックガイド 物語	『竹林物語』(山田順代子)	小学館(サンケイ古典文学)	2019
30	ブックガイド 物語	『蟹井物語』(竹取留世) (田中留世)	新潮書店(新潮時代文庫)	2014
30	ブックガイド 物語	『平安文庫でわかる恋の物語』(高柳和子)	筑摩書房(ちくまソフィア文庫)	2018
30	ブックガイド 物語	『恋する伊勢物語』(猪方友)	筑摩書房(ちくま文庫)	1995
30	ブックガイド 物語	『伊勢物語』(山上北香 編)	筑摩書房(山上北香/古典新訳コレクション)	2023
30	ブックガイド 物語	『平安人の名文で「伊勢物語」を読む』(山本洋子)	河出新書文庫(河出新書)	2014
30	ブックガイド 和歌	『古事記和歌入门』(渡部聰)	新潮書店(新潮ソフィア文庫)	2014
30	ブックガイド 和歌	『入門 万葉集』(上野20)	筑摩書房(ちくまソフィア文庫)	2019
30	ブックガイド 和歌	『古今和歌集』の読み方 (新木栄子)	NHK出版(NHKブックス)	2018
30	ブックガイド 和歌	『古今和歌集』 上巻 (大隈田和弘)	KADOKAWA(角川ソフィア文庫)	2007
30	ブックガイド 和歌	『新歌』(辻谷百人一首 うたかるい) (辻谷泰)	KADOKAWA	2010
30	ブックガイド 和歌	『ことのは』(万葉集日記) (青沼雅賀/猪谷尚弘監修・解説)	ほるる出版社	2009
30	ブックガイド 和歌	『平安物語』(角川文庫 編)	KADOKAWA(角川ソフィア文庫/ビギナーズ・クラシックス 日本の古文)	2001
30	ブックガイド 和歌	『平安物語を読む』(永野宏明)	河出文庫(河出文庫日本文庫)	2023
30	ブックガイド 和歌	『平安物語ハンドブック』(C・E・保吉 編)	三省堂	2007
30	ブックガイド 和歌	『平安物語』31 (古川日出男 編)	筑摩書房(山上北香/古典新訳コレクション)	2003
30	ブックガイド 和歌	『わくわくかほく!アラベスク』(平安物語) (高野文子、山田浩子)	筑摩書房	2022
30	ブックガイド 和歌	『物語文庫』(村上タツコ・北ノつむきみ・マシガ・施松麻衣郎・鈴木・コラム)	西田本山婦社	2018
30	ブックガイド 日記・紀行	『紀伊之』(大岡尚)	筑摩書房(ちくま学芸文庫)	2018
30	ブックガイド 日記・紀行	『おとなのほけな物語』(角川書店 編)	KADOKAWA(角川ソフィア文庫/ビギナーズ・クラシックス 日本の古文)	2001
30	ブックガイド 日記・紀行	『真愛物語 おくやほほぞ記』(ヲナキ・ヨーン 著)	筑摩社(筑摩学年少文庫)	2007
30	ブックガイド 日記・紀行	『物語の西ハンドブック 改訂版』(高畠詩緒)	三省堂	2002
30	ブックガイド 日記・紀行	『高野文子こうい語』(高田純子)	KDTブロタクシヨン	2016
30	ブックガイド 日記・紀行	『新歌』(人見はあれなりり) (柴武詩月記) (小浦裕美子/赤間良子 編修)	KADOKAWA	2023
30	ブックガイド 古文入門	『古文文庫ルーム』(鈴木義一 編)	筑摩書房	2018
30	ブックガイド 古文入門	『物語あるのほけなし』(理賀義之)	KADOKAWA(角川ソフィア文庫)	2014
30	ブックガイド 古文入門	『古文本基礎 本当にわかる古文入門』(二曾根圭人・加地伸作)	筑摩社(筑摩学年少文庫)	2010
30	ブックガイド 古文入門	『豪文堂』(前田勝成)	筑摩書房(ちくま学芸文庫)	2019
30	ブックガイド 古文入門	『豪文堂』(前田勝成)	中央公論新社(中央公論)	2007
30	ブックガイド 古文入門	『豪文堂』(古田忠洋・須崎吉彦)	明治書院	2011

		No. _____	
 読書記録シート 			
_____年_____組 名前_____			
書名			
著作者			
出版社・発行日			
読み始めた日	年 月 日	読み終えた日	年 月 日
読もうと思った いきさつ			
あら筋・内容			
読後の感想			

目次 <ブックガイド> ▶ 読書感想文の書き方

カムバネルラの行動と似てる体験を書こうかな。

① 本を読み、次のような点についてメモする。
読み終わって、どんな気持ちになったか。それは疑問に思ったこと。
心に残った言葉や場面とその理由。
心に残った言葉や場面と作品の中で起るべきことと自分が体験したことで似ていること。
印象的な登場人物とその特徴。
登場人物が自分と似ているところ、異なるところ。
本を読んで自分の考えがどのように変わったか。
メモを見直し、どの部分を感想文に書くか検討する。

みんなの幸いを探しに行く勇気

一年三組 田中広実

「僕もうあんな大きな暗の中だっこわらない。きっとみんなのほんとうのさいわいを手がしに行く。といまでもいまだも僕たち一緒に進んで行こう。」

「銀河鉄道の夜」の中でいちばん心に残った言葉だ。この言葉にジョバンニの決心を感じた。そして、ジョバンニがこう思えたのは、カムバネルラがそばにいたからだった。
ジョバンニは親友カムバネルラとともに銀河鉄道に乗つて旅をする。列車にはさざまなが乗つてきて、そして降りてゆく。
「銀河鉄道の夜」はジョバンニが出会いと別れを振り返し、「ほんとうのさいわい」について考える物語だ。けれど、「ほんとうのさいわい」とはなんだろう。

(中略)

「ほんとうのさいわい」について考える間に、私の頭に浮かんだ

題名

読んでみたくなる題名を考える。

書きだし

興味を引くために、感想文の中心となる話題で始める。

あらね

印象に残った言葉を引用する。
誰がどうなった話か、どんなことが中心的話題かなどを簡単なまとめて感想や疑問点を述べる。

主じめ

本を読み、どんな思いをもつたか、自分の考えがどう変わったかを書く。

自分との共通点

登場人物と似た体験や、同じような気持ちを感じたできごとについて考える。

主じめ

本を読み、どんな思いをもつたか、自分の考えがどう変わったかを書く。